第4回富山市総合計画審議会「活力・交流部会」 議事録

日時: 令和8年9月 29 日(火)14:00～16:00
場所:富山市役所西館8階　研修室
出席者:(順不同)

市村　恵美	公募委員
竹内　睦美	富山公共職業安定所　所長
谷井　悦子	なのはな農業協同組合　代表理事組合長
平林　茂夫	富山森林組合　代表理事組合長
道井　秀樹	とやま市漁業協同組合　代表理事組合長
麦野　英順	富山経済同友会　代表幹事
森口　毅彦	富山大学経済学部　学部長(部会長)

企画管理部	西野主幹、八木主査
商工労働部	坂口次長
農林水産部	開発次長
活力都市創造部	高森次長

欠席者:

庵　　栄伸	富山商工会議所　会頭

議事内容:

1.　開会
2.　部会長挨拶
3.　議　　事
(1)「分野別の政策」の修正案について
4.　閉会

【意見交換】

＜概要＞

- **産業・雇用**

委員　　提示された指標を政策立案に活用するためには、誰が、どの年代で、どこへ移動しているかなど、属性や行動を細分化したデータが必要と考える。県内の大学卒業生の就職率を出しているが、大学卒業者だけでなく、高校卒業者の就職状況も含めてデータを整理し、若者の県内定着に向けた施策の検討に活用してほしい。また、平均値だけでなく、分布や偏り、世代ごとの背景が把握できるデータの示し方を検討してほしい。

委員　　詳細なデータの追加を求める対象は、現状を示すグラフか、成果指標か確認したい。

委員　　国勢調査等の複数の統計を組み合わせ、AI なども活用しながら年代別の傾向やばらつきを分析できるようにしてほしい。富山市の特徴が分かる形でデータを提示すると、より興味深く、施策にも活用しやすいと考える。

委員　　データを工夫して提示すると興味を持ってみていただけるのではないか、という意見である。全体的な状況を示すためにデータを用いて分析を行い、それに対して政策や施策を提示する形になっているかと思うが、改めて意見を踏まえてデータの見せ方は検討いただきたい。

　今指標について意見が出たが、現行計画から指標が大幅に絞り込まれている。今回の指標設定方針について説明いただければと思う。

事務局　　現行の基本計画では 100 を超える指標を掲載しているが、今回は記載内容を絞ることが全体的なテーマの1つと考えており、各分野で示す未来スケッチとの関連性を踏まえて指標を設定した。市が特に重視し、目指す方向を1つの側面から測るものとしている。その他にも施策ごとの指標設定も検討しているが、適切性の検証が途中段階である。基本計画には現案を掲載し、実施計画にはより詳細な指標の記載を検討している。基本計画は毎年度ローリングし、指標を検証しながら施策の進捗を管理する考えである。

委員　　進捗評価には、市が一定程度コントロールできる指標を用いることが望ましい。県全体の就職率や開業率など、市単独では左右できない指標を採用した場合、達成度の評価が難しくなると考えるが、見解を伺いたい。

委員　　製造業の粗付加価値額や開業率について、基準値と目標値の差が小さく、目標設定の考え方が分かりにくい。現状維持を目指すのか、減少傾向を抑えるのかなど、目標値の根拠を明確にしてほしい。

商工労働部次長　　製造業の粗付加価値額は、直近の実績等を踏まえて目標値を設定している。人口減少に伴う従業者数の減少が見込まれる中、DX や先端技術の

導入を促進し、全体的な生産性・収益性を向上させ、付加価値の増加を図ることが政策目標であり、産業基盤の強化につながっていくと考えている。大幅な伸びではないが、現状を踏まえた目標としている。

委員　　58 ページの施策に高校生や教育機関との連携に関する内容が明記されたことを評価したい。大学・専門学校卒業者の県内就職率は高くない一方、高校卒業者の県内就職率は高い。特に普通科高校では進学を主眼とした教育が中心となり、進学後に富山市内で働くことを意識する機会が少ない。進学前から市内就職を選択肢として考えられる情報や機会を提供する必要があり、課題としても考えているため、今回明記されたことを具体的な施策に反映してほしい。

委員　　進学する高校生に対するキャリア意識の醸成が不足しているとの指摘である。「高校生」の記載を踏まえ、具体的な施策を推進してほしい。

委員　　高校生の採用に向け、春から各学校を訪問し、自社の魅力を伝え、ようやく1人か2人が見学に来て、就職に結びついている状況である。高校生は就職する人が少なく、就職に結び付けることは容易ではない。数年後には高校卒業者の就職希望者がいなくなるのではないかとの危機感がある。若者に選ばれる魅力ある職場づくりと情報発信に取り組む必要がある。

委員　　一次産業では職員の応募が少なく、特に漁業関係団体では担い手の確保が極めて難しい。働き方が多様化する中、収益性と働きやすさを両立させることが重要だと感じている。農業も苦慮していると思うが、収益を確保できる事業構造と働きやすい職場の環境づくりが求められていると思う。

　売り手市場や中途採用の増加により雇用関係も変化しており、旧来型の企業・産業は人材確保が難しくなる。企業の職場環境改善やキャリア形成を支援する施策が必要と考える。

委員　　林業は人材が集まりにくい分野であるため、学校を直接訪問し、教員の協力を得ながら独自に採用活動を行っている。入職後に技術や機械に触れることで仕事への関心が高まり、継続意欲が生まれる例もある。若者が仕事の魅力を実感できる機会を設けることが重要である。

委員　　各産業で人材確保が厳しい状況がある中、独自の工夫も行われている一方で、企業の体質改善や職場環境改善、採用活動を支援する仕組みも必要という意見が挙げられている。この辺りも検討していただければと思う。

● **観光・交流**

委員　「コンベンション等開催、合宿実施数及び参加者数」の目標値は伸びが小さく、目標として十分か疑問である。オンライン会議の普及など環境変化も踏まえ、より意欲的な目標を検討してはどうか。

商工労働部次長　コロナ禍以降、会議のハイブリッド化が進み、開催件数が増加しても、実際に富山を訪れる参加者数は伸びにくい状況にある。コンベンションには様々な経済効果があり、誘致は力を入れる必要があると感じている。会議の他にもスポーツ大会や大学の合宿等も含まれるため、しっかりと働きかけを行い件数、人数を増加させていければと考えている。大学生の合宿誘致では、富山のイメージや就職意向に関するアンケート、就職説明会や観光ガイド等も併せて行い、単なる合宿誘致に留まらず、観光や将来の就職につなげる取組を進めている。目標値については、意見を踏まえて検討したい。

委員　外部環境の影響を受けやすい参加者数を目標とするのではなく、観光ガイドの育成数など、成果に至るまでの取組や市の努力が把握できる指標を設定してはどうか。最終的な成果だけでなく、施策の実施状況を継続的に確認することが重要である。

事務局　指標には、事業量を示す活動指標（アウトプット）と、取組の結果を示す成果指標（アウトカム）がある。基本計画では、市の事業量や予算額よりも、施策の結果として社会がどのように変化したかを示すアウトカム指標を中心に掲載する方針としている。ただし、市の取組との因果関係を明確にしにくい面があることは認識している。

委員　外部環境に左右される KPI だけでは、施策の進捗や実施主体の責任が分かりにくい。市が何を行い、どこまで進んだかを把握できる活動指標も重視すべきである。

事務局　実施計画に活動指標を掲載する方向性はあるが、掲載範囲は検討中である。活動指標まで含めると指標数が相当多くなり、管理負担も大きくなるため、実効性とのバランスを踏まえて記載内容を検討する。

委員　子どもや市民が地域内で交流・活動できる場所に関する情報が不足している。公民館など既存施設はあるものの、活動内容によっては利用先を探すことが難しい。市内には魅力的な場所や地域の歴史・文化を伝えられる人材がいるため、そういった人と気軽に交流できる機会が増える取組も必要ではないか。

● **農林水産**

委員　　森林を守り、伐採し、再び育てる循環が林業の基本である。前回の質問に対する修正内容を確認したが、現状の記載でおおむね意図は反映されていると考える。

委員　　富山市と水産業界が将来の課題を見据えて連携し、伴走型で取り組んでおり、3地区合同の統合市場の完成など成果も現れている。一方、自然環境の変化による漁獲量の減少が懸念され、価格も高騰しており、将来的には経営環境が悪化する可能性がある。

陸上養殖は大規模な資本を必要とし、従来の一次産業の枠組みだけでは対応が難しい。漁港周辺で民間活力を導入し、食や観光と連携する取組も考えられる。水産業の持続には、市民の意見を聞き、情報を発信し、理解と消費につなげることが重要である。

委員　　昨年は米の価格が上昇し、農業の利益につながったと言われているが、その利益が十分に農家へ還元されているとは限らない。本年は収量が厳しく、生産資材や農機具の価格も上昇しており、農家の負担は大きい状況にある。担い手不足と高齢化も進み、将来、誰が農地を維持するのか強い危機感がある。消費者にも生産現場の実情を理解してもらい、生産者が持続可能な価格で販売できる環境を整える必要がある。米の価格が安定し、農業従事者に光が差す時代になってほしいと思う。

農林水産部次長　　68 ページの「認定農業者・認定新規就農者数及び法人数」について、認定農業者等は今後も減少が見込まれるため、可能な限り減少幅を緩やかにしたいと考えている。一方、法人経営については、市が法人化を支援することで増加を目指しており、令和 13 年度の目標値を設定している。

● **文化・芸術**

委員　　文化芸術による交流人口が増加しているか、現状をどのように検証しているのか伺いたい。

事務局　　文化芸術による交流人口は把握していないが、例えばガラス美術館の来館者数が海外メディアで紹介された影響等により増加している。一方で、市民文化振興事業の来場者数は頭打ち又は減少傾向にあり、事業によって状況にばらつきがある。

委員　　文化芸術による交流を促進するには、街並み、飲食、自然、産業等と一体的に取り組む必要がある。市が直接事業を行う方法と、民間の取組を支援する方法の双方が考えられるため、関連情報を分かりやすく発信してほしい。

事務局　　ご指摘のとおり、文化芸術の振興には環境、産業、観光等の各分野との

連携が必要であり、計画にもその方向性を記載している。

委員　　観光客から道案内を求められた際、市民自身も適切な案内先や情報を把握していないことがある。観光、農業体験、食、温浴等を組み合わせた企画や、地域の活動に参加できる情報を発信すれば、市民が案内役となり、来訪者との継続的な関係づくりにもつながる。市民と来訪者の双方が地域資源を知り、楽しめる仕組みを検討してほしい。

委員　　観光客だけでなく市民にも情報を積極的に発信し、市民が地域資源を知り、文化芸術に親しみ、来訪者との交流に協力できる循環をつくることが重要である。また、「富山デザインフェアアンケートの満足度」の目標値が他の指標に比べて高く設定されている理由を確認したい。

商工労働部次長　　アンケートでは「満足」が6割程度を占めており、「やや満足」も含めると既に 90%以上となるため、その数値の上昇より、本当に満足してまた来たいと思っている方々の数値を重視し、「満足」を選ぶ来場者の割合を高める目標としている。再来場したいと思える内容を目指し、毎年度段階的に向上させる考えである。

委員　　文化イベントの広報では、規制や施設管理上の制約があるとしても、民間施設の目立つ場所などを活用し、都市全体で発信する工夫が必要である。また、富山の食の魅力、特に寿司を象徴的に発信する拠点を駅周辺に設けるなど、県・市・民間が既存の枠組みを越えて連携する取組を検討してはどうか。他都市の食をテーマとした集積事例のように、来訪者が必ず立ち寄る場所をつくることが、まちの魅力向上につながると考える。

委員　　芸術、観光、産業、農業等を個別に考えるのではなく、分野横断で連携して取り組む必要がある。また、農業法人数を増やす目標について、集落営農や大規模化による効率化を目指すのか、新たな事業展開や雇用創出を目指すのか、目的を明確にする必要がある。

委員　　農産物は、健康価値や品質を適切に伝え、販路を工夫することで、より高い付加価値を生み出せる可能性がある。食料安全保障の観点も踏まえ、生産者が持続的に収益を確保できる仕組みを検討する必要がある。

- **全体**

委員　　森林整備の指標について、間伐だけでなく主伐や再造林を含む循環的な森林整備が分かる表現にしてはどうか。

農林水産部次長　　指標は間伐に限定したものではなく、主伐等も含めた森林整備面積の増加を目標としている。主伐・再造林にも取り組む方針である。

委員　　地域の文化行事は、担い手や資金の減少により継続が難しくなるおそれ

	がある。クラウドファンディング等も活用し、市内外の支援者を増やしながら、継続的に運営できる仕組みが必要である。
商工労働部次長	今年度はクラウドファンディングを実施した。今後も全国の支援者との関係を継続し、地域外のファンも含めて応援の輪を広げる必要がある。また、駐車場不足や渋滞など新たな課題も生じており、次年度に向けて運営面を改善したい。
委員	地域文化を将来につなぐには、子どもの頃から身近に触れる機会を設けることが重要である。学校教育で和楽器に触れる機会と地域の文化行事を結び付け、歌、踊り、楽器等を総合的に体験できる取組を検討してほしい。

（以上）